



「新しいのちに歩むため」

日本で祈り支えてくださっている皆さま、お元気でいらっしゃいますか。日本の春、新緑の季節を思い浮かべながら祈りのうちにレターを書いています。

ここブラジリアは、雨季が過ぎ、朝晩はすっかり秋風となって寝苦しい夜は遠のきました。先日参加した俳句会では、秋の季語であるコスモスや南瓜（かぼちゃ）などを兼題にそれぞれが自作の句を持ち寄りました。

草刈りで現れ出でた種南瓜／病床の友にカボチャ煮喜ばれ

「鉄兜（てつかぶと）」とも言われる肉厚の日本カボチャはブラジルの店頭にも並び、日系人が農業で貢献してきたことの証しとなっています。長年農業を営み、移民としてご苦労を重ねてこられた句会の先輩方に混じって、若輩者の私も句会に参加できることは大きな恵みです。与えられた出会いを大切にしながら、主のご愛をお伝えしていきたいと祈り願っております。

復活祭の翌週の4月7日の聖日、ブラジリア教会では6名の方が洗礼を受けられました。昨年ヴァルゼンボニータの集会で信仰決心をした宮原ニウソンさんと前添アユミさんも、一年の洗礼準備を経て神の家族に加えられました。わが家の三男聖也（14歳）も受洗し、礼拝でギターの奏楽奉仕をするようになっています。

洗礼準備の学びを共にした日系二世の宮原ニウソンさんは、農園で花作りの仕事をしていますが、パンデミックの中で家庭に大きな試練が襲いました。彼は携帯でいろいろな牧師のメッセージを聞いて求道し、ヴァルゼンボニータの集会に導かれて来ました。同じ村に共に生きる信仰の仲間がいることを知って、彼はどれほど励まされたことでしょうか。お父さんは新潟出身の日系一世の日本人。家庭と親族の救いのために日々祈りながら証しの生活を続けるニウソンさん。宮原家とヴァルゼンボニータのさらなる祝福をお祈りください。



左から 洲崎ジョナタン、浜田聖也、マリア・エドアルダ
宮原ニウソン、高橋ユウジ、前添アユミ

「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいのちに歩むためです。」

（ローマ6:4）

三男が受洗の証しで引用した聖句です。

古い自分に死に、新しいのちに歩み始めた6名の主にある兄弟姉妹たち、またそのご家族の祝福を祈らされています。さらに、新しいのちに歩む人々が起こされ、神の家族が広がっていくように、宣教のわざに仕えていきたいと思えます。

「勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい」

ローマ12:11



受洗した三男聖也（中央）

近況と祈りのお願い

- ・主任牧師の安井敏明先生・弘子夫人の健康と牧会の祝福。
- ・ヴァルゼンボニータに住む日系約40家族の祝福と救い。毎月のガレージ礼拝と書道教室、訪問の祝福のため。
- ・洗礼を受けた6名の兄弟姉妹の信仰の歩みと家族の祝福。
- ・日本語学校、サッカー教室、書道教室、俳句会などを通して信頼関係が生まれ、福音宣教に用いられるように。
- ・受験生の次男湧希の学びと進路のため。

2024年1-3月 献金のご報告と感謝

指定献金: 448,280 円

現地支援: 261,950 円

合計: 710,230 円

昨年に引き続き、今年も尊い御献金をおさげくださっている諸教会とお一人おひとりの兄弟姉妹に心から感謝申し上げます。日本の宣教の前進と教会の祝福をもお祈りさせていただきます。皆さまの日々の生活とお働きの上に、主の豊かな恵みが注がれ、主の栄光を見上げることができるようになります。

2024年 献金目標額: 410万円

（「浜田宣教師指定」300万円＋現地支援110万円）